



芙蓉会社内報
平成25年1月発行

やすらぎ



医療法人社団 芙蓉会

ふよう病院

芙蓉ミオ・ファミリア町田

グループホームあおぞら

千葉芙蓉病院

きやらの樹ケアセンター

新年のご挨拶と抱負

芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

新年明けましておめでとうございます。昨年末には、再び政権交代が実現し株価及び経済界は、多少賑わっているようです。我々介護・医療業界、並びにご利用者の皆様にとって喜ばしい方向へ導かれるようにただ祈るばかりであります。

先日の成人の日は、関東地方が大雪に見舞われ、新成人の皆様にも大変な1日となりました。この新成人に対する某テレビ局のアンケートによると「これから大切にしたいものは」という問いに、1位はお金、2位が健康。また別の設問でも「将来に不安を感じるか」に対し9割近くが「感じる」「多少は感じる」と回答しました。今後の日本を背負う若い世代に対して現代社会が今なすべきことは何か、改めて考えさせられる内容でした。

ここ数年我々の業界では、他業種と比較しても離職率が高いといわれております。当法人においても離職率を算出しておりますが、昨年12月時点での統計で平均年齢46.4歳（昨年同時期46.3歳）、平均勤続年数8.8年（昨年8.4年）でありました。離職率で苦戦している事業所がある中、平均勤続年数が伸びている事は大変喜ばしい結果ではありますが、雇用環境の整備については、継続して取り組みたいと考えております。

さて昨年度は、見直しをする、点検する年度とし、5つの柱（サービス、人材、医療・介護の質、財務、成長）を旗印に様々な取り組みをして参りました。今年は昨年の実績と改善点を踏まえ、1月より新しい部署を立ち上げました。

経営企画室、人事・育成室、地域連携室の3部署であります。短期的な考え方ではなく、中長期的な意味合いを強く考えております。また、町田の施設にて以前からご要望の多かった病棟の整備につきましても、早急に対応をする予定でございます。整備期間中にはご迷惑をかける場合もあるかと思いますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

今年もご利用者の皆様、スタッフの方々、双方にとって、さらに良い方向へと進めるように舵取りをし、皆様方と共に歩んで参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



年のはじめに

町田 ふよう病院 院長 佐藤 勉

皆様、新年おめでとうございます。
年末・年始の休みを利用して旅行や帰省をした方も多いでしょう。いつもより、アルコールやカロリーを摂り過ぎて体重が増え後悔している人は居ませんか。一方、世の中には、まだ寒く暗い元日の朝からジョギングやウォーキングを欠かさず、食事も食材・カロリーなどを厳格に守るまじめ人間も少なくありません。一体、厳格な健康管理は、長生きにどれ程寄与しているのでしょうか。

昔、フィンランド症候群というのが話題になりました。フィンランドの保健局が、いかに健康管理が大切かということを見せしめるため、会社員の男性600人ずつの2つのグループを対象に実験をしました。1つのグループは医師の健康診断を受け、タバコは絶対吸わない、酒はほどほどにと、生活や健康管理を徹底した600人。もう1つのグループは、同じ年齢の男性ですが、酒もタバコもやりたい放題、全く健康管理を受けない600人です。この2つのグループを10年間フォローアップし、いかに健康管理が大切かということを明らかにしようと試みました。10年目にふたを開けた所、なんと厳重に管理された方が圧倒的にたくさん死んでいたそうです。この結果が世に出ると、データラメな者が増えるからと保健局は発表を控えようとしたのですが、実験に参加した医師が、このデータを発表してしまいました。これがフィン

ランド症候群といわれ、日本でも報道されました。真面目な人間の死亡率が高い理由は、規則正しい生活を強いられ精神的な束縛を受けるストレスが免疫系を弱めるため病気になり易いとか、コレステロールを下げ過ぎたためのマイナス効果（詳細略）などが推定されています。

〔日本内科学会雑誌 第99号より〕

信じるか信じないかはあなたの自由です。



感染対策委員会『基本ケアと感染防止対策』

ふよう病院

院内感染対策の中でも手指衛生は重要な対策である

1 手指衛生の定義

手指衛生とは石鹸と流水による手洗いと擦式手指消毒剤を使用した手洗いをまとめて手指衛生という

2 五大医療過誤

1)人違い 2)輸血違い 3)左右違い・臓器違い
4)異物残置 5)ハイリスク薬の誤薬

3 事故発生後の医療機関の対応

医療事故被害者の気持ちとして代表的なものは、真実を伝えて欲しい、過誤を認め謝罪して欲しい、真相究明に尽くして欲しいなどが上げられ、法的行動をとった理由としては、怒りを感じたから、過誤を認めさせたかったから、納得いく説明が欲しかったからと続く。近年、医

療に対する期待と関心が高まってきたこと、医療の不確実性が理解されていないこと、患者の権利意識の向上が背景にあると思われます。

この様な状況下で、医療機関の対応としては、医療事故被害者のおっしゃることを傾聴しニーズを把握し気持ちを吐き出していただく。その上で、医療者に過誤があった場合が明らかであれば謝罪する。事故原因や過失の有無が明確で無い場合は原因が分からないことを伝えた上で、相手側の感情に配慮した対応をする。この際、謝罪は先延ばしにしないよう留意する。

4 まとめ

結局のところ日々の中で、患者様、家族様と十分なコミュニケーションを持ち、信頼関係を築いておくことが訴訟にまでならないための鍵である。

佐藤院長より『ターミナルケアについて』

ふよう病院

昨年11月20日に開かれた全国公立私立病院連盟主催による第24回「国民の健康会議」に出席しました。テーマは『日本人の死生観』でした。初めに東日本大震災の津波で自分の子供を守れず死なせてしまったことに強い悲嘆と罪の意識を持つ若い母親をハグして、傾聴を続けた上智大学グリーンケア研究所所長の高木慶子先生の公演がありました。初めの頃は今にも自殺しそうなその母親が一周忌を目前にした当りから素直に泣けるようになり人が変わったように明るくなったそうです。涙は心を浄化させ、そこから希望が生まれる…ということでした。次に、各地の施設、病院の医師によるターミナルケアや死生観について講演がありました。

また、11月26日には町田医師会の講演会「平穏死のすすめ」があり参加しました。今マスコミでも取り上げられている特養芦花ホームの石飛幸三先生は高齢者への胃瘻造設に疑問を持ち、終末期の高齢者では、食べられる量だけを無理をせず食べて自然な最後を迎えるのが平穏死の秘訣であり、胃瘻をはじめ人口栄養は差し控えや中止も可能であるべきなどのガイドラインを提唱されています。

先生の著書「平穏死という選択」には米国内科学教科書の一節が引用されています

Understanding that patients stop eating because they are dying, not dying because they have stopped eating, can reduce family and caregiver anxiety.

死を迎える人は、命を終えようとしているのだから食べないのだ。食べないから死ぬのではない。このことを理解することで、家族や介護する人は悩みを和らげられる。



新春おせち

介護付有料老人ホーム
芙蓉ミオ・ファミリア町田

新年明けましておめでとうございます。

よく晴れた元旦、おかげさまで7回目のお正月を迎えることができました。恒例のおせち料理をいただきながら、御屠蘇で乾杯し、この一年も良い年になるようにと祈りつつ、新年をお祝いいたしました。ホーム内の厨房で用意されたおせちは、コンパクトながらお正月を感じら

れるメニューとなっております。蓋を開けると、彩がきれいで家庭的な食材に、ご入居者の皆様が、「おいしそう」とお喜びのお声をあげられ、お正月ならではの数の子や伊達巻が好評で、「美味しい」という笑顔がたくさん見られました。お酒も少し入り、会話も弾んで、華やかな一年の幕開けとなりました。



福笑いやカルタ取りなどして、お正月の遊びを楽しんでいただきました。



新年に思ったことは

千葉芙蓉病院 院長 大津裕司

外交や経済等難問山積みの最中の暮れに新内閣が発足しました。年も改まり、心機一転、局面の打開されるのではとの期待を胸に初詣をした人の姿が報ぜられていました。

奇しくも今年は日出る伊勢神宮、日沈む出雲大社、と日本の代表的神社の遷官が行われるべく準備が整えられていると伝えられています。

伊勢神宮の式年遷官は20年周期で、古くは持統天皇690年にまで遡り、以後、修理だけの一時期を除いて今年で62回目となるそうです。この20年の間に資材の調達から建築技術等の様々な事柄が世代世代で継承伝達されてきて今日を迎えることが可能となっています。なお、解体された資材は地方の神社に配分され、各地の神社の再建に利用されるのだそうです。小さな話ですが、余り木を貰い受け茶杓を作り愛用されている姿を拝見したことがあります。伝承された物品がその地に留まることなく地方に伝えられ文化の伝播に一役を担っていると思えば個人の知恵に敬服せざるを得ないではありませんか。

暗く、息苦しさを感ずる報道の多いなか京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞は一服の清涼でした。

「自分の研究は先学からの科学の流れの内に在る」

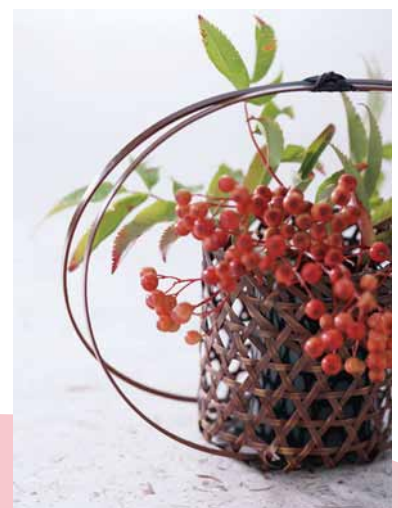
その偉業は受精した卵細胞が身体のあらゆる臓器組織になってゆく能力を具えた細胞すなわち、ips細胞を創出しその方法論を確立したことです。その細胞を作るためには数多くの遺伝子の中からある遺伝子を選び出し、その遺伝子を



増殖しなくなった成熟細胞に注入するのです。しかし、この遺伝子を選び出すことは大変に困難な仕事であり、この難問を弛みない努力で克服されたと聞いております。科学の流れと表現されたように遺伝子の研究はG. Jメンデルが1865年に遺伝の法則を発表して以来、染色体そして核酸の発見を経て遺伝子の構造・機能・発見の解明にと多くの研究者により脈々と受け継がれているのです。

伊勢神宮にとっての20年周期は職人の世界では、10代で見習いに、30代で棟梁に、50代で後見人となります。この制度は技法を伝承するための古来からの知恵ではないでしょうか。

千葉芙蓉病院は1975年創建から40年近くがたっています。20年周期を例にとるならば2周目に入ったこととなります。ここに身を置く私たち各々は何を、どう伝えていったらよいのでしょうか。



新年にあたり

きゃらの樹ケアセンター 施設長 嶋田 裕

一昨年の東日本大震災およびそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故の復興への見通しが未だ明確ではなく、さらに日本の経済・社会保障・危機管理に対する不安などが重なり、昨年は閉塞感のある1年でした。

一方で、東京スカイツリーの開業、金環日食、ロンドンオリンピックで過去最多のメダル獲得、京都大学山中伸弥教授のノーベル医学生理学賞受賞などの明るいニュースもあり、昨年を漢字一字で表すと「金」だそうです。

特に、ノーベル医学生理学賞に日本の医学研究者が選ばれたことは大変喜ばしく、また誇りに思います。欧米に比し恵まれない研究環境に苦労されたことなどは、医学研究に携わったことのある者にはよく理解できるところです。しかしそれを克服して、世界的な業績を挙げ得たということは、凡人には真似のできない快挙で、心からの敬意と賞賛を送りたいと思います。



今年も、なお一層多くの明るいニュースのあること、また山中教授の研究の更なる進展を願い、さらに巳年を契機に少しでも明るい展望が日本の将来に開けてくることを期待しております。



クリスマス会

千葉芙蓉病院

千葉芙蓉病院では、去る12月22日に毎年恒例のクリスマス会を催しました。

今回は、手話ダンスのボランティアサークルの方たちに協力していただきました。初めての試みでしたが、衣装を変えて何曲も見せてくださり、にぎやかでユーモラスな進行に、患者様も職員も楽しい時を過ごしました。昔懐かしい

曲に、思わず涙ぐんでいた患者様もいらっしゃいました。ご家族の方の参加もあり、病院の取り組みをご理解いただけたのではないかと感じています。

まだまだ寒い日々が続きますが、これから訪れる春に向けて、お花見などのイベントを計画していく予定です。



栄養課より

千葉芙蓉病院

厨房では、今年も行事食として特別メニューを提供しました。内容は、手まり寿司(ネギトロ・そばろ・錦糸卵)、チキンのトマト煮込み、コールスローサラダ、コーンポタージュ、クリスマスケーキでした。

嚥下が困難な患者様には、手まり寿司の代わりにスベラカーゼ寿司を提供しました。スベラカーゼ寿司とは、粥にスベラカーゼを加えてペースト状に固めたものです。その上に手まり寿司と同じ3種の具を乗せました。

クリスマスケーキは、去年は全ての患者様にイチゴのショートケーキを提供しましたが、今年はショートケーキとイチゴとココアのムースケーキの2種類を用意し、選択できるようにしてみました。ケーキは好評で患者様に喜んでいただけて良かったです。ただ、イチゴとココアのムースケーキは上手く固まらず見た目が良く



なかったもので、次回は綺麗に出来るように工夫したいです。

患者様から、手まり寿司の御飯が少し固かったと指摘がありました。来年は今回指摘されたところや、失敗したことを改善し、より良い行事食になるよう頑張ります。



1月4日のお祝い膳ではお雑煮、おせち、みかんゼリーを提供しました。

お雑煮は本物のお餅だと患者様には危険で使えないので、昨年好評だったスベラカーゼ餅を使用しました。昨年はスベラカーゼ餅が冷たかったという反省点がありました。今年はお餅をなるべく温かい状態で患者様に提供できるよう、盛り付ける前に一度お餅を蒸し器で温め直し、汁は熱いうちにかけました。すこし時間を置いてから検食してみた結果、お餅の表面は温かかったのですが中心は少し冷えてしまいました。

スベラカーゼの特徴は軟らかく口の中で溶けるので、嚥下が難しい患者様にはいいのですが、冷えやすいので時間が経つと冷たくなってしま



うのが難点です。次回は更に温かい食事を提供できるように工夫し、患者様にお正月を感じていただきたいです。



クリスマス会

日時 12月22日(土)10時～11時
場所 きやらの樹ケアセンター4階リハビリ室
参加人数 計90名

反省点・感想

○サンタクロース・トナカイが登場するときに盛り上げる為、入所者様、職員に鈴を鳴らしていただくよう次回からお願いします。



きゃらの樹ケアセンター

○サンタクロース、トナカイ、サンタガールたちが元気に盛り上げてくれて、入所者様が笑顔で喜んでくれたのでとてもよかったです。
○ボランティアの方たちが歌詞カードを持参してくださったのでギター、ハーモニカ演奏にあわせて歌うことが出来てとてもよかったです。



もちつき大会

1月11日に恒例の餅つきを行いました。ご利用者の方にもついていたいただきました。最近はお



きゃらの樹ケアセンター

とんど見なくなった餅つきを皆さん懐かしそうに見ておられました。



さつまいものきんとん

材料

さつまいも 1kg
りんご 1個
うずら豆煮豆（市販） 少々
砂糖 125g
レモン汁 適量
バニラエッセンス 少々
塩 少々



作り方

- (1) さつまいもは洗って皮を剥き2cm位に切り、水にさらし10～20分位あくぬきする
- (2) さつまいもを茹で軟らかくなったら水分をきり、すり鉢でよくつぶす。
- (3) りんごは皮を剥いて4つ割り、芯をとり薄く切り、薄い塩水に通してから水少々入れホーロー鍋で煮る。りんごが軟らかくなったら砂糖大さじ1を入れ砂糖が溶けたらレモン汁を入れ火を止める。
- (4) 鍋に(2)の芋、りんご、うずら豆煮豆、砂糖、バニラエッセンス、

塩を入れ砂糖が溶ける

までかき混ぜながら煮る。

評価（抜粋） 色鮮やか／素材生かされている／甘さ控えめでよい／色・舌触り・味よく入所者様が喜ぶと思う／うずら豆もう少しやわらかければよい／あっさり味／嚥下に問題ない方には飲み込みやすさはよい／うずら豆をもう少し小さくすればよかった／歯ざわりとてもよかった／飲み込みはミキサー状も問題ない／ミキサー状は水分で味が薄まっていた／

お正月にぜひ出して下さい

作成者 桑田 比呂子

小豆と大豆入り玄米ご飯

材料

玄米 3合
小豆 100g
大豆 100g
黒ごま 少々

作り方

- (1) 玄米・小豆・大豆は一晩浸水する。
- (2) 圧力鍋で炊飯する。
- (3) 黒ごま少々をふる。

評価（抜粋） 栄養的にはすごく感銘する／塩加減によりおいしい／温かいとよいと思う／胡麻の風味が効いている／素材が生かされている／小豆と大豆が色取りとしてよい／ごまの香りと味が一番わかる／健康のためにはよいのでは／小豆が硬い／ミキサー状は粥みたいで食べるとこくがあるが見た目は余りよくない／マクロビオティックの調理法とは相違しているが小豆以外は問題ない軟らかさで仕上がっていた、しかし玄米は繊維が多くよく咀嚼しなければ消化不良を起こすので高齢者に提供するには改善の必要あり

作成者 石井 千栄子